



駒込病院

〒113-8677

東京都文京区本駒込三丁目18番22号

電話 03-3823-2101

病院の概要

がん・感染症を中心とする疾患に対し高度な医療サービスを行う専門病院であり、併せて、一般医療機関の要請による地域医療サービスも行う病院です。総合診療基盤に支えられ診療各科の連携のもとそれぞれの専門領域を尊重した診療を行っています。都道府県がん診療連携拠点病院、エイズ診療中核拠点病院、第一種感染症指定医療機関、造血幹細胞移植推進拠点病院等に指定され全国から多数の患者を集めています。当院は教育・研究活動の充実を図っていることも特徴です。臨床研修医制度による指定病院であるとともに各種の臨床研修の指定を受けています。その他、一般医療機関に対する研修の場の提供や都立病院に勤務する医療従事者、医療関係学生および看護学生等の実習・教育も行っています。院内ではカンサーボード等カンファランスを活発に行っているほか、臨床研究、学会活動および論文作成など、高度な医療水準の維持に努めています。

■ 診療科目

内科（消化器 呼吸器 循環器 脳神経 血液 腎臓 肝臓 膠原病 糖尿病・内分泌） 総合診療科 腫瘍内科 緩和ケア科 神経科 小児科 外科（食道 肝胆膵 胃 大腸 乳腺 呼吸器） 整形外科 リハビリテーション科 骨軟部腫瘍科 脳神経外科 皮膚腫瘍科 形成再建外科 腎泌尿器外科 婦人科 眼科 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 感染症科 麻酔科 歯科口腔外科 放射線科（診断部・治療部） 輸血・細胞治療科 内視鏡科 病理科

■ 基幹施設となる診療科（括弧内は連携施設病院）

- ・内科（大久保/大塚/豊島/荏原/墨東/多摩総合/多摩北/神経/松沢/NTT 東日本関東病院/新渡戸記念中野総合病院/湘南鎌倉総合病院/国立がん研究センター中央病院/東京医科歯科大学医学部附属病院//東京大学医学部附属病院/東京健生病院/大泉生協病院/麻生飯塚病院/国立がん研究センター東病院/岩手県立中央病院/東京ベイ・浦安市川病院/結核予防会複十字病院/東京大学医科学研究所附属病院/青森県立中央病院/帝京大学ちば総合医療センター/東京女子医科大学病院/大森赤十字病院/JCHO 東京山手メディカルセンター/島しょ等)
- ・麻酔科（広尾/大久保/大塚/豊島/荏原/墨東/多摩総合/多摩北/東部/神経/小児総合/順天堂大学医学部附属順天堂医院/越谷市立病院/かわぐち心臓呼吸器病院)
- ・泌尿器科（大塚/豊島/墨東/多摩総合/多摩北/多摩南/小児総合/国立がん研究センター東病院/がん研有明病院/青梅市立総合病院/東京北医療センター/細部医院/島しょ等)
- ・病理科（広尾/大久保/豊島/墨東/東京医科歯科大学病院)
- ・放射線科（大塚/荏原/墨東/多摩総合/神経/小児総合/鳥取大学医学部附属病院/筑波大学附属病院/横浜市立大学附属病院/国際医療福祉大学成田病院)
- ・総合診療科（広尾/小児総合/東京健生病院/大泉生協病院/島しょ等)

■ 連携施設となる診療科（括弧内は東京医師アカデミーにおける基幹施設病院のみ掲載）

- ・内科（広尾/大久保/大塚/豊島/荏原/墨東/多摩総合/多摩北)
- ・外科（墨東/多摩総合)
- ・産婦人科（多摩総合)
- ・精神科（松沢)
- ・整形外科（多摩総合)
- ・麻酔科（広尾/大塚/豊島/荏原/墨東/多摩総合/東部)
- ・皮膚科（墨東)
- ・耳鼻咽喉科（多摩総合)
- ・放射線科（多摩総合)
- ・総合診療科（多摩北)

臨床研修委員会委員長からのひとこと



膠原病科部長
瀬戸口 京吾

当院の専門臨床研修医制度は平成4年に開始され平成20年から東京医師アカデミーの研修コースに組み込まれ、平成30年度から日本専門医機構による新専門医制度にも対応しております。当院での専門臨床研修の特徴は、各診療科の総合基盤に支えられた最先端のがん診療、感染症診療を経験できることです。また学会活動や論文発表を活発に行っている指導医のもとで、様々な学会での発表や論文作成の機会にも恵まれています。がん・感染症の病院ではありますが、当院から発信された、IgG4関連疾患症例も十分に経験できるため、がん・感染症以外の診療部門での研修も充実しております。本人のやる気次第でいくらかでも可能性の広がる場を提供できますので、がん・感染症に興味のある方、それ以外に興味のある方もお待ちしております。

シニアレジデントからのひとこと①

私は出身大学の関連病院で初期研修を行い、がん薬物療法専門医を目指して駒込病院腫瘍内科へ入職しました。当院では内科・外科は各臓器に細分化されており、腫瘍内科は中でも消化器癌（主に胃癌、膵癌）、頭頸部癌、原発不明がん、悪性リンパ腫と複数のがん種を診療している数少ない科です。コロナ下で入院患者数は40人前後でしたが、今後は病棟も元に戻りベッド数も増加する予定で、益々多くの症例を診療することが出来るようになると思われま

す。がん種が多くにわたる分勉強は大変ですが、エビデンスに則った治療を基本とし、内科診療・各がんの治療・緩和ケアと多くの臨床的プロブレムを取り扱うことができます。最近ではCAR-Tなどの免疫治療のマネジメントや、治験治療の参加、また、新規治療の導入において新たな知見のデータ集積・解析・考察する手法を学べ、最終的に学会や論文発表する機会も沢山あります。

科の雰囲気は基本的に穏やかで先輩医師からの指導が多く得られます。オンコロジックエマージェンシーに際しては日頃の雰囲気と打って変わって切迫した判断を迫られますが、そこから何とか建て直して化学療法後の奏功に持っていきやりがいは、がん治療医ならではのようです。日々の診療経験を積むことで自身が全人的に成長していくのを実感できます。

皆さんといつか駒込病院でお会いできるのを楽しみにしています。

腫瘍内科 3年次 美野 真乃

シニアレジデントからのひとこと②

当科での後期研修について紹介いたします。当院はがん・感染症センターであり、癌から血液疾患、希少な肉腫まで多彩な検体の勉強ができるほか、HIV感染症など感染症に関連した症例も経験できます。そのほかの当科の特徴としては、仲間の専攻医や指導医の人数が多いことが挙げられます。現在病理科の後期研修医は5人と、一施設としては非常に多く賑やかで、日々互いの知識を相談・共有することができます。また、指導医の先生方に相談しやすく、顕微鏡を一緒に覗きながら、フィードバックをいただけます。専攻医期間には病理解剖の経験が必要ですが、当科は他院病理科との連携があり、複数の病院で病理解剖ができるため、解剖についても多彩な症例を数多く経験することができます。加えて、日ごろ経験する症例についての学術活動も活発になされています。私自身も、後期研修2年目に海外病理学会での発表を経験することができました。病理科志望の初期研修の方、まだ大学生の方も、是非一度見学にいらして下さい。

病理科 3年次 内藤 裕